

第2回「河内長野市総合計画審議会」会議録

日時：平成26年11月26日（水）

午後7時00分～

場所：市役所8階802会議室

出席委員 38名

- | | |
|------------|---|
| 1号委員 | 浦尾雅文、大原一郎、駄場中太介、中林圭見、山口健一 |
| 2号委員（各種団体） | 上奥雅勇、上野修二、生地孝至、奥野豊、曾和孝司、西村道夫、
廣瀬義雄、牧田久美子、松尾正氣、三浦佐江子、道本雅秀、
吉村禎二、吉年正守 |
| 2号委員（公募） | 出水季武、黒川陞、幸山善信、渋谷修、中畔美代子、堀泰明、
水谷邦子、村上靖毅、森脇稔 |
| 3号委員 | 加我宏之、加藤司、嘉名光市、田中晃代、戸谷裕之、
中道厚子、農野寛治（副会長）、紅谷昇平、増田昇（会長） |
| 4号委員 | 松井芳和、松倉昌明 |

欠席委員 3名

- | | |
|------------|-----------|
| 1号委員 | 木ノ本寛 |
| 2号委員（各種団体） | 増田勝紀、山本明彦 |
| 3号委員 | 小野達也 |

事務局

総合政策部長：辻野

総合政策部副理事兼政策企画課長：小林

政策企画課参事：島田

政策企画課課長補佐：緒方

政策企画課主幹：谷ノ上

政策企画課主幹：尾西

ジャパンインターナショナル総合研究所

伊藤研究員 相見研究員

【小林課長】

ただ今より、河内長野市総合計画審議会を開催します。本日は大変お忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。

本日の議題は、これまで部会で検討していただいた基本構想の第1章から第4章について、審議していただく予定となっていますので、よろしくお願ひします。

議事へ入る前に、本日の会議成立の報告をします。本日の出席者は今のところ37名です。半数以上のご出席をいただいていますので、審議会が成立していることを報告します。

それでは、会長、議事のほうをよろしくお願ひします。

【議長（会長）】

これより、第2回河内長野市総合計画審議会を始めます。

この間、3つの部会に分かれて、2回議論していただきました。先週金曜日に3部会の正副部長にお集まりいただき、資料を作成しました。本来であれば、会議の数日前に資料を送りたかったのですが、三連休が入ったため、送れなかったことをお詫び申し上げます。次回は、数日前に資料を送りたいと思いますので、ご容赦いただければと思います。

本日の議事については、議事1「基本構想第1章～第4章について」これが主な議題となります。議事2「今後の検討について」となっていますので、順次進めさせていただきます。

進め方については、第1章と第2章は関連していますので、まず、第1章と第2章をご説明いただき、論議をします。その後、第3章と第4章をご説明いただき、論議をします。9時を目標に、9時少し前には今後に向けて、あるいは、その他についてお話をさせていただきます、9時には終わりたいと思いますので、よろしくお願ひします。

それでは、まず、基本構想第1章～第2章について、事務局より説明をよろしくお願ひします。

【緒方補佐】

資料が当日になってしまいましたことを、重ねてお詫び申し上げます。配付資料、資料1～資料5の確認をさせていただきます。

資料「基本構想骨子案」に基づき、変更点を中心に第1章及び第2章を説明します。下線部が修正点となります。

3ページの「第1節 総合計画策定の目的」は、「第4次計画から引き継ぐ課題への対応を含め」を追加しました。第4次総合計画の積み残した課題をきちんと踏まえて第5次計画を作るという表現が必要ではないかということで、表現を追加しました。

6ページの「第1節 社会潮流」は、まず、節の直下にある下線部については、ここに限らず全ての節の下にリード文を追加しました。

「1. 少子・高齢化の進行による人口減少及び人口構造の変化」は、少子化対策や子育て支援の充実が必要だということと、課題に「教育立市による人づくり」という項目があるため、それに対応する形で「次世代を担う人づくり」という文言を入れました。

「2. 安全・安心なまちづくりへの要請」は、「子どもや高齢者など社会的弱者を狙った犯罪について、全体の件数に占める割合が上昇しています」としました。以前は、「増加してい

ます」という表現でしたが、件数が増加しているのか割合が増加しているのか、それとも、感覚的なものなのかよくわからないというご指摘を受けて、資料2のとおり、件数自体は減ってきていますが、全体を占める割合として、子どもや高齢者を狙った犯罪の割合が増加していることから、このような表現にしました。

「4. 経済情勢や産業構造の変化」は、女性の活躍を網羅したほうが良いということで、以前は「労働力確保のため」という狭い観点でしたが、広い観点でこのような表現にしました。

7 ページ「6. 住民自治社会の実現」は、下から2行目、行政目線または上から目線の表現になっているというご意見を踏まえ、このような表現にしました。

8 ページの「1. 沿革」は、教育立市についてのご意見を頂いたので、「教育立市を宣言し」という表現に変更しました。

「2. まちの特性」は、河川の名前を書いていたが、「石川をはじめとする」という表現に変更しました。それ以降の下線部分は、河内長野の魅力や特性をふんだんに記載するという観点から、このように表現しています。

18 ページの第4節は「河内長野市の主な課題」です。「1. 急速な人口減少と少子・高齢化への対応」は、ここについても、少子化への対応や子育て支援についての表現が弱いのではないかというご意見がありましたので、このような表現にしました。

「2. ぬくもりのある地域社会の構築」は、以前は「超高齢化への対応」という見出しでしたが、超高齢化への対応については「1. 急速な人口減少と少子・高齢化への対応」の中に含め、ここでは、障がい者、ひとり親家庭や生活困窮者などの社会的弱者への対応や人権の尊重など福祉・人権全般を捉え、「ぬくもりのある地域社会の構築」という見出しでまとめました。

「3. 安全で安心なまちづくり」は、河内長野の特性から土砂災害等の対応が課題だという表現でしたが、それだけをうたうと危ない市だと思われるというご意見がありましたので、基本的には安全なまちだが、土砂災害については対応していかなければいけないという表現に変更しました。

19 ページの「4. 自然環境の保全とより良い環境の創造」は、自然環境を保全しなければいけないこと、また、人工的に作り出した環境も含めて創造していかなければいけないということで、このような見出しに変更しました。それから、森林等を守っていく観点として「担い手の高齢化や後継者不足などから遊休農林地の増加が見られていることが課題となります。」として、課題を具体的に記載しました。

「5. 地域の連携による産業の振興」は、女性の活躍という話もありましたので、「女性や高齢者、障がい者」とし、働きやすい環境づくりという表現を加えました。

「6. 自然や歴史・文化を活かした魅力ある都市づくり」は、見出しに河内長野の特性である自然や歴史・文化を入れて、地域資源を活かすということを重点的に記載しました。それから、市内の交通網等についてのご意見もありましたので、「生活利便性の維持・向上」と

いう表現を加えました。また、「公園」も河内長野の特性なので、追加しました。それから、景観づくりについては「4. 自然環境の保全とより良い環境の創造」にありますが、ここにも必要だということで「美しい都市景観の形成や」という表現を加えました。

20 ページは、かなり組み替えをしました。「8. 市民主体のまちづくり」は、市民の活動を中心に記載しました。課題を掲げ、その対応として、自治会の加入促進やコミュニティの活性化が必要であると記載するとともに、地域社会への参加、そしてより主体的な参画という表現を追加し、市民主体のまちづくりについて表現しました。

「9. 協働による新たな公共の構築」は、市民主体というよりは、多様な主体が公的な部分を担っていくということで、「協働」という言葉で表現してまとめました。それから、「協働」の考え方を後段に記載しました。さらに、「当事者意識や共感の輪を広げていく」という気持ちを大事にしながら、まちづくりを進めていくという表現にしました。

「10. 自立した行政運営と広域的な連携の推進」は、「自立した行政運営」は「協働」とくっついていましたが、そこから切り離して行政が行うこととして、行政運営と広域的な連携の推進として括り直し、まとめました。

第1章及び第2章の説明については以上です。ご意見をよろしくお願いします。

【議長（会長）】

特に第2章については、第1節は日本がおかれている状況で、第2節は河内長野市の状況です。それを受けて、第4節は河内長野市の主な課題として整理しています。

各部会で議論していただいた内容を極力反映できるように調整してきました。ご意見やご質問はいかがでしょうか。

【幸山委員】

19 ページ、第4節 河内長野市の主な課題の「5. 地域の連携による産業の振興」について、地域資源や地域ブランドということなので、「6次産業」を入れたほうが良いと思います。具体的には、「本市の資源や魅力を活かした新たな価値の創造をめざして、農・林・商・工・観光業が連携して、6次産業化を図るとともに」としたほうが良いと思いますが、いかがでしょうか。

【議長（会長）】

そのような意味合いで書かれていますが、明確にしたほうが良いかもしれません。

みなさんご存じだと思いますが、6次産業というのは、農業・林業・水産業という1次産業、そして、それを工業で加工する2次産業、そして、それを流通させ、商業として売る3次産業について、 $1 + 2 + 3 = 6$ という意味です。最近いろいろな造語が作られているので、説明しておかなければいけないと思います。

【幸山委員】

「5. 地域の連携による産業の振興」に地域ブランド、6次産業を入れた方がよいのではないのでしょうか。2行目「農・林・商・工・観光の連携を図るとともに…」を「連携して6次産業化を図る」としてはどうでしょうか。

【緒方補佐】

6次産業化が全てではないので、特徴的な部分として6次産業化を出しながら、産業全体を載せることにしたいと思います。

【議長（会長）】

他にいかがでしょうか。

【西村委員】

「3. 安全で安心なまちづくり」のところで、「本市はこれまで大きな災害に遭遇していないことから、安全なまちであると言えます」とありますが、大きな災害に遭遇していないことを強調する必要があるのでしょうか。また、大きな災害に遭遇していないとする意味は、何を意味しているのかよくわかりません。この前の台風では家が2軒ほどつぶれていますし、そのようなことを考えると、大きな災害に遭遇していないと言い切っているのかどうか疑問に思います。むしろ、災害があったことを入れたほうが良いと思います。先日、神戸へ行った際、防災センターの人に、津波はないが山津波というものがあるという話を聞きましたので、災害がないということを強調する意味はないと思います。むしろ、備えが進んでいるのかどうかということを入れたほうが良いと思います。危機感をあおれと言っているわけではありませんが、非常時を想定したまちづくりというのが大前提だと思うので、書き方は慎重にしたほうが良いと思います。

【議長（会長）】

昨日、府立大学で、防災の先生と、これからの安全都市をどうするかというシンポジウムをやりました。先生は今のような話をされ、日本列島である限り、今まで災害にあわなかったということは、災害リスクが高まっているとも言えるということでした。

今まで災害にあっていないというよりも、今、ご提案いただいたように、安全に対して意識しながら進めている都市だという積極性を、打ち出したほうが良いかもしれません。危険や安全だというよりも、むしろ、高まっている災害リスクに対して常に備えている都市だということを、上手く表現できないかということです。

【山口委員】

私も同感です。大きな災害という基準を、事務局としてどのように考えているのかお聞き

したいです。

私は山間部の滝畑に住んでいますが、滝畑ダムができるまでは、橋や農地が流されて、子どもが2人も死亡したという災害が過去にありました。そういう経験者がこれを見たときに、うちのところはあれだけの被害にあったのに、どういう考えで総合計画を書いているのかと、プラスには働かずマイナスのイメージのほうが非常に大きくなるのではないかと危惧します。

【議長（会長）】

ご指摘いただいたことを受けて、私から提案したような方向で文章を改善していくということでもよろしいでしょうか。

他にいかがでしょうか。

【三浦委員】

19ページの「5. 地域の連携による産業の振興」のところで、「女性や高齢者、障がい者が働きやすい環境づくりを行っていく必要があります」と掲げていますが、環境づくりというだけで支援ということになるのでしょうか。もう少し積極的な表現がほしいと思います。

【議長（会長）】

環境づくりの中に支援が含まれているとも言えますが、環境づくりというだけではなく支援ということを明記してはどうかというご提案です。

先生方は、専門的な立場からご発言いただいても結構ですので、お願いしたいと思います。いかがでしょうか。

我々の大学では、大学内に保育園があります。やはり、女性の研究者はまだまだ少ないので、積極的に支援しています。

そのような方向でどの程度のことが書けるか、事務局で検討していただきたいと思います。

【上野委員】

安全で安心なまちというのは、いろいろあるのですが、この一年を振り返ると、小学生の女兒が誘拐されて殺されたりしているの、弱者の安全を守るということを入れたらいいと思います。

【議長（会長）】

今のご指摘は、18ページの「3. 安全で安心なまちづくり」に、「全国的に子どもや高齢者など社会的弱者を狙った犯罪が目立っており」と入っています。

【村上委員】

20ページの10番に「自立した行政運営」とあり、河内長野市の主な課題となっていますが、

市民からすれば行政運営は自立していると思っています。どこから自立するのか、自立しなければいけない理由は何なのか、よくわかりません。文章を読んでも拘束されているような感じはないので、あえて「自立した」とするならば、今までは何だったのかということにならないような表現のほうが良いと思います。内容はよくわかるのですが。

【議長（会長）】

おそらく「安定した財政基盤の確立を図ることが必要です」というあたりが、自立という言葉に表れているのだらうと思いますが、もう少し工夫が必要ではないかということです。

【松倉委員】

20 ページ、10 番の「広域的な連携の推進」について、「行政運営をより効果的・効率的に進める観点から～広域連携の重要性も高まっています」とありますが、行政だけではなく民間同士の広域連携というイメージを持たせたほうが良いのではないかと思います。例えば、河内長野の魅力というのは、自然、文化、歴史などがあるので、広くみなさんに知ってもらうためには、民間レベルの連携が重要になってくると思います。そのような観点を入れたほうが、より効果的だと思います。

【議長（会長）】

10 番は、どちらかと言うと行政課題のまとめになっているので、そこへ入れるのか、あるいは、8 番の市民主体のまちづくりに、市内の話にとどまらずもう少し広域的な視野を持って入れるのがいいでしょうか。

【松倉委員】

あるいは、5 番の産業のあたりはいかがでしょう。

【議長（会長）】

「5. 地域の連携による産業の振興」のほうがいいかもしれません。どこに入れるかは、検討するという事によろしいでしょうか。

【廣瀬委員】

「8. 市民主体のまちづくり」のところ、「地域における～地域のつながりの希薄化が予測される中で」とありますが、私はそのように感じません。

【議長（会長）】

そのように表現したのは、自治会の加入率が低下しているという背景があるからだだと思います。

【廣瀬委員】

先ほど防災の話が出ましたが、私は自主防災組織の代表者として参加しています。

今、地域では、自分たちのまちは自分たちで守るという意識で燃えています。この文章は、元気がありません。我々が目指しているのは、河内長野をどう元気にするかということです。消極的で先真っ暗な感じでは、それこそ 40 年後には河内長野市は消滅可能都市になり得えます。

手前味噌ですが、24 日に関西テレビのアンカーという番組の須田慎一郎さんのコーナーで、買い物困難者の支援活動について特集されました。河内長野は都心から 30 分ですが、買い物困難者が増えています。マスメディアでは買い物弱者や買い物難民という言い方をしていますが、差別用語になるので「買い物困難者」のほうがいいのではないかと思います。

そういうところにまちづくりのヒントが隠されています。そのときの資料があるので、もう少し表現の仕方を考えていただきたいと思います。

【議長（会長）】

「希薄化が予想される」という文言では、先が暗そうにみえるということです。

【堀委員】

私の見方は反対です。意識を持って活発にやっている市のまちづくり協議会や、従来の自治会活動、それから、市民のボランティア活動は、盛んなほうだと思います。しかし、全体でみると、1% いるかどうかです。残念なことです。私が住んでいる地域も不活性です。一般多数の方に声掛けしても、参加意識はなく、資料にも書いてある担い手になっていただける方は実際に少ないです。何かをやる時には、そういう方たちの意識が変わらなければいけないと感じています。

「希薄化」という言葉がいいかどうかはわかりませんが、必ずしも十分だとは言えないと感じています。

【議長（会長）】

実態として十分ではないですが、新たな動きとしてそういう動きが活発化しつつあるということ、どこかに書いたほうが良いということですね。

お二人からご指摘いただいて、十分だと言ってしまうと間違いだし、まったく芽がないというのも間違いなので、十分ではないものの芽が出つつあるというような文章に修正する方向で、検討していただきたいと思います。

【松井委員】

大阪全体をみているが、河内長野市の特徴的な課題はしっかり書いたほうがいいと思います。一つは、開発団地が多いことで、これから人口減少を迎える中で、いろいろな対策をやっていかなければいけないと思います。例えば、「1. 急速な人口減少と少子・高齢化への対応」では、「人口急増期に転入した年代が同時に高齢期を迎え」という前に「開発団地を多く抱える本市では」という表現が入っていたほうが、後々に対策を考えるときにやりやすいのではないかと思います。もう一つは、河内長野市は緑や歴史・文化財が多く、観光の魅力を伸ばす要素があると思うので、「5. 地域の連携による産業の振興」のところは、「今後さらに、地域活性・交流拠点（奥河内くろまるの郷）の活用や奥河内の玄関口とした交流人口の増加を図るとともに」というだけでは淋しいので、文化財や緑を踏まえた表現にしてはどうかと思います。

【議長（会長）】

歴史・文化の持つ地域資源については5番や6番に入っているので、あとは書き方だと思います。

それから、丘陵地開発が集中したということを入るかどうかですが、実情にきちんと合わせたほうがいいので、そういう方向で考えてみるということによろしいでしょうか。

【水谷委員】

話を戻して申し訳ないですが、20ページ、「8. 市民主体のまちづくり」の「地域のつながりの希薄化」についてです。私たちが活動している子育て支援では、若いお母様方との関わりがあるのですが、地域の中でつながりが感じられないという声をよく耳にします。まちづくりのときは、どちらかという先輩方が中心になりますが、世代間のつながりというか、子どもや高齢者にはスポットが当たりますが、その間の世代は「子育て」ということだけになってしまいます。実際には、単身の若い世代の人たちもたくさんいますし、子どもがいない世代もいます。そういう人たちが、地域の中で活動・活躍できるようなものも念頭に置きそのような視点も必要ではないかと感じます。

「8. 市民主体のまちづくり」の中に、つながりの希薄化を感じている世代が現実にいるということは、ひしひしと感じています。

【議長（会長）】

「つながり」ということを、もう少し丁寧に説明するかどうかですね。世代間のつながりや居住歴の長さの違いなど、具体的に説明したほうがいいかもしれません。検討していただきたいと思います。

【上野委員】

「8. 市民主体のまちづくり」の「開発団地」という言葉ですが、すでに数十年経っていて、5年や10年先もまだ開発団地と言うのでしょうか。

【議長（会長）】

そうですね、適切な言葉を選びたいと思います。ありがとうございます。

【大原委員】

20ページの「10. 自立した行政運営と広域的な連携の推進」について、「近隣市町村や関係機関等との連携を図りながら、経済、観光、文化等の幅広い分野において」とありますが、経済、観光、文化は頑張っていると感じています。むしろ、交通アクセスが遅れているので、交通とか医療、医療については第5章の計画実現のための方策できちんとうたっているのに、交通を先頭にして「交通、医療、経済、観光、文化等の」としたほうがいいのではないかと思います。防災については、すでにやられていると思うので。

【議長（会長）】

それでは、大体よろしいでしょうか。課題の認識が非常に重要なところです。社会潮流のところも大事ですが、やはり、河内長野市がどうなのかということが大事です。18～20ページについて、いろいろなご意見を頂きましたので、反映するよう対応していただきたいと思っています。ありがとうございました。

次に進みます。第3章と第4章は、今回の議論だけでは終わらないかもしれません。基本的な理念や将来像ということなので、もう一度意見交換することになると思います。

第3書と第4章について、事務局より説明をよろしくお願いします。

【緒方補佐】

21ページの「第1節 まちづくりの基本理念」は、まちづくりをしていくうえでの考え方をうたっています。3つの基本理念を挙げていますが、さまざまな意見があり、全ての意見を反映することはできませんでしたが、下線部のところに修正を加えました。大きなところでは、順番を変更しました。順番についても複数の意見がありましたが、「みんなで一緒に創るまちづくり」、「安全・安心で元気なまちづくり」、「人・自然・文化との調和と共生のまちづくり」という順番にしました。以前は、3、2、1の順番でしたが、これからのまちづくりというのは、人が中心となってやっていかなければいけないということで、順番にこだわる必要はないというご意見もありましたが、1番目を人としました。

22ページの「第2節 将来都市像」は、例としてキャッチフレーズを入れてあります。イメージしやすいように、仮に入れたものです。議論の中に出てくるいろいろなキーワードから、キャッチフレーズを導き出したいと思っています。これまでの議論の中にもキーワードが出

ていると思いますが、今後、重要なキーワードが出てきたら加えていただければと思います。

23 ページの第4章「第1節 将来人口」は、各部会でさまざまな議論をしていただきましたが、なかなか決まらないということを知っています。推計では、総合計画の最終年度の平成37年度末には人口が96,742人になりますが、目標として100,000人にしてはどうかという議論をしていただいているところです。

「1. 定住人口」は、人口減少による影響をきちんと捉えたほうが良いということで、下線部のような表現にしました。それから、減っていくにもかかわらず「目標」という言葉を使うのはどうかというご意見を頂きましたので、「人口減少をできるかぎり抑制し」という表現を追加しましたが、「目標」という言葉を使うかどうか議論が必要です。また、96,742人から100,000人にするには、約3,000人の人口を減らさないようにする取り組みが必要になりますが、根拠があるのかどうかというご意見も頂きました。ある取り組みをすれば人数が増えるというのは難しいところですが、状況に対してどのような取り組みをするのかイメージしておいたほうが良いということで、資料4を用意しました。「想定人口を10万人とする考え方」をまとめました。こちらについては、コンサルティング会社の伊藤さんから説明していただきます。

【ジャパン総研】

各部会で議論していく中で、100,000人に設定する根拠について資料を作成しました。

まず、「1. 基本的な考え方」について、過去のトレンドから推計すると、平成37年度末の人口は96,742人になりますが、平成27年度末から平成37年度末までの10年間では約13,000人の減少が想定されます。また、現在の平成17年度末から平成27年度末の減少は約10,000人となり、今後、減少を食い止めることは難しいですが、減少を加速させずに抑えることを目標に、10万人を維持していこうという考え方です。

暮らしやすさの向上や子育て支援の充実、それから、転出を抑えることや転入を増やす施策を展開することにより、今後の加速的な減少を抑制することを目標として、想定人口10万人を提案させていただきました。抑制の内訳については、下の表に示しています。

3,300人程度抑えていかなければいけないのですが、まずは、①出生率です。出生率とは、子どもが生まれる人数の水準で、合計特殊出生率とは、女性の方が一生の間に産む子どもの数の平均です。現在の河内長野市の合計特殊出生率は、1.15となっています。国で人口減少対策を考えていく中で、1億人の人口を維持していこうという動きがあり、目指す出生率の水準が1.8と示されています。河内長野市でも目指そうということで、1.8と設定しました。ただ、急に上げることは難しいため、段階的に上げていき、平成37年に1.8を目指します。考え方としては、子育て支援施策等の充実と、カッコ書きで（若年層の定住、転入促進効果も含む）と書いていますが、生む世代の母数を増やしていかなければ子どもの数は増えていかないため、まずは、若い人に住んでもらうことを挙げています。それにより、0～14歳人口が約1,570人増加することになります。

次に、②生残率です。生残率とは、5年後に生き残っている率です。河内長野市の平均寿命は、大阪府下でみると高いほうですが、池田市と吹田市が男性・女性それぞれ一位になっていることから、両市の水準を目指す目標を立てました。健康増進や介護予防施策等を充実させ、健康寿命を延ばし、府内トップレベルの平均寿命を目指すことにより、75歳以上の人口約800人の減少を抑制するという考え方です。

最後の③移動率は、死亡による減少を除いた人口移動の割合を示したものです。25～39歳は、子育て世代にあたりますが、その世代の平均は-6%となっており、転出が多くなっています。転出を抑えるために、子育てのしやすさや暮らしやすさを高める施策を充実することや、企業誘致の促進等により、子育て世代の転出抑制や転入促進を図り、転出超過を改善していきます。目標としては、現在の-6%を-3%にすることで、生産年齢人口といわれる15～64歳の人口が約1,080人増加することになります。

この3つを合わせると3,450人となり、10万人へ向けてそれぞれ達成していこうという考え方です。先ほどの説明にもありましたが、どの施策で何人ということは積み上げづらいところがあるので、一定の指標として目標を立てていき、その積み上げで10万人を考えていくという資料になっています。

【緒方補佐】

それぞれの項目に合った施策を進めていくことになります。ちなみに、健康寿命については、資料3として用意しましたので、参考までにご覧ください。

続いて、24ページの「第2節 都市空間の基本的な考え方」は、第2部会で議論を進めているところです。第1部会と第3部会の方は初めて見る文章だと思います。

「1. 将来の都市空間づくりの方向性」は、大きな部分を書いています。1つ目の文章は、河内長野市は地域資源に恵まれていることや、利便性が高いこと、災害が少ないなどの利点を生かして、経済成長に合わせて住宅都市として発展してきた経過を記載しています。そのような中で、地域それぞれに魅力や特色を備えた居住をはじめ、生活利便性、教育、交流などの多様な都市機能を有してきました。2つ目の文章は、今後のことですが、恵まれた資源を有効に活用するとともに、生活の利便性の向上や安全・安心の確保、地域雇用の創出を図るなど、質の高い魅力あふれる暮らしを創造しながら、都市として持続発展させていくという今後の方向性を記載しています。3つ目の文章は、今後、人口減少や少子・高齢化の局面を前提とした人口規模・構造や、都市活動に見合った都市の姿としてネットワーク型コンパクトシティへの再構築を目指すという、大きな方向性を記載しています。

「2. 河内長野市におけるコンパクトシティのあり方」は、河内長野市はどのようなあり方がいいのか記載しています。基本的には、市街地の無秩序な拡大を抑制し、生活利便性などの都市機能を高度に集積した「拠点」の強化を図ることです。まず、拠点を強化し、その周辺にある市民の生活が営まれる「生活圏」においては、地域ごとの自立性を高めながら、それぞれが持つ地域資源や特色を活かしたまちづくりを進めていきます。また、「拠点と生活

圏」、または、「生活圏同士」、さらには、「広域連携」については、それぞれが連携・補完しながら、人、モノ、情報の交流が行われるネットワークを形成し、質の高い暮らしを創造するという河内長野が目指すネットワーク型コンパクトシティについて説明しています。

そのような流れの中で、「3. 都市空間づくりの目標」で、3つの目標を掲げています。1つ目の目標「(1) 暮らしやすさを追求する」は、自然・歴史・文化という地域資源との調和を図りながら、質の高い居住環境を確保するとともに、職住近接の暮らしやすいまちづくりを目指します。拠点については、「河内長野駅」「千代田駅」「三日市町駅」としており、機能を強化します。併せて、「生活圏」ごとの自主性、自立性の確保、特性や既存ストックを活かしながら、暮らしやすさを感じられるまちづくりを推進します。さらに、人口減少時代での公共建築物の維持保全、更新時期が来ており、その辺の対応も必要であることから、計画的な維持保全を行うとともに、適正な機能の確保や配置を進めていきます。それから、公共交通、道路などの交通網を充実させ、都市機能の相互補完による多様なネットワーク化により、市全体の生活利便性の向上を図ります。

2つ目の目標「(2) 安全・安心に暮らせる生活環境を確保する」は、災害に強いまちづくりや交通安全対策、さらには、ユニバーサルデザインの推進など、誰もが安全で安心して暮らせるまちづくりを推進します。それから、道路・橋梁などについても、社会資本の計画的かつ適正な維持管理を推進します。

3つ目の目標「(3) 地域の活力を創出する」は、全体として地域資源を活かしたまちづくりを推進します。具体的な都市空間ということでは、市街化区域においては低未利用地の有効活用を図るとともに、市街化調整区域においては、森林や農空間の保全・活用を図ることを基本としつつ、地域の活力の創出に資する可能性が高い地域においては、自然環境との調和を図りながら有効な土地活用を図るという方向性を記載しています。

「拠点」や「生活圏」などを図上に表した「将来の都市空間概念図」というものをお示しできればよかったです。現在作成中のため、完成した図を見ながらこの文章をもう一度見ていただくという流れになると思います。説明は以上です。

【議長（会長）】

論議すべき点が多いと思いますが、とりあえず、たたき台として提案していただきました。どこからでも結構ですので、いかがでしょうか。

【渋谷委員】

第4章の人口の推計理由についての目標ですが、目標というのは、表現としてポジティブな背景がなければいけないと思いますが、「歯止め」や「想定」など、とてもネガティブな表現だと思います。「歯止め」とするならば、もっとストレートに表現すべきだと思います。

【議長（会長）】

資料4では、人口減少抑制ということで、抑制するための目標として内訳を記載しています。いかがでしょうか。

【上野委員】

政府が発表した目標人口は、1億です。23ページの右肩下がりの表では、このままいくと平成37年度末には約96,000人になります。資料4では、平成37年の合計特殊出生率の目標が1.8となっていますが、それでは遅いのではないかと思います。いかがでしょうか。

【議長（会長）】

特殊出生率について、もう少し早めに上げておかないといけないのではないかというご意見です。計算上では、平成37年に1.8に到達したとして、1,570人増えるという計算でしょうか。

【ジャパン総研】

そうです。平成37年に向けて、1.15から段階的に伸ばしていくと、10万人に達成するという計算です。もっと早い段階で1.8にすれば、人口をもっと増やせることになります。

【上野委員】

段階別の中身はわかりませんが、安全策として、もう少し早い段階がいいのではないかと思います。

【ジャパン総研】

それが理想ですが、現在の1.15から急に増やしていくことは、実際には難しいです。

【西村委員】

今までは上り調子で人口が増え、国全体の動きと市の動きも一緒でしたが、これからは人口が減り、それぞれに安定したまちづくりや国づくりをしなければいけません。そういう中で、人口は減るけれども心は豊かで成熟するというイメージを打ち出してはいかがでしょうか。同じ現象でも何を強調するかによって見方が変わってくるので、「成熟都市」という表現はいいのではないかと思います。

犯罪が少ないというのも一つだし、学校教育でいえば、いじめはないなど、残念ながら河内長野市は全国的に有名な事件が起こっていますが、今後、そういうことはなくし、犯罪がなくて非常に心豊かな人が住めるまちというような、何かみんなの目標にできるようなことを掲げたらどうかと思います。どちらかというとなら第2章になるでしょうか。その辺のニュアンスを入れたらどうでしょうか。

【議長（会長）】

推計値はあくまでも推計値です。1人の位まで出していますが、数学上の問題だけです。10 ページに「人口の推移と将来推計」として、コーホート法を用いて計算するところという数学上に基づいた数値がきちんと出ています。今ご指摘いただいたように、23 ページのところは、1人あたりまでの細かい表を再掲するのではなく、もう少し目標のような形で書けないかということです。

先生方は、いかがでしょうか。

【戸谷委員】

資料4に「生残率」という言葉がありますが、生々しい感じがするので、平均寿命という表記にするなど、もう少し柔らかく表現したほうがいいと思います。

私の勝手な予測ですが、まだまだ伸びるような気がします。1.8は何とかなしよと思っても難しいですが、平均寿命は全国的な話ですし、もっと伸び代はあるような気がします。

【議長（会長）】

10 万人都市を目指す形で明るく書けないかということですね。今までのようにどんどん増えていく拡大指向ではなく成熟型指向で、みんなが幸せに年を取っていけるとか、幸せに子どもを産めるというようなことを書いて、それで10万人だというような文章にするということでしょうか。

【戸谷委員】

生残率は成熟と関係するとか、いつまでも元気で生きていけるということが、成熟するということになるので、いいのかなと思います。

【議長（会長）】

統計資料的なものは第2章にきちんと入っているので、みなさんからご意見を踏まえて、目標らしい書き方に見ましましょうか。こんな10万人のまちを目指すというようなまとめ方はどうでしょうか。

【堀委員】

資料4は、想定人口を10万人にする、もしくは、歯止めをかけるという理由は書いてありますが、根本的になぜ10万人なのかということは、どこにも書いてありません。

昔、行政サービスの効率という話を聞いたことがあります。ある程度の人口を保っておかないと、行政の効率が悪くなるというような話でした。人口が減ってきたらいろいろな面で行政的に不都合が生じるのであれば、頑張って投資して少子化を防ぐことによって、こういう環境が維持できるという説明が必要ではないでしょうか。

【議長（会長）】

教えてほしいのですが、10万人の都市と10万人未満の都市では、地方交付税等が変わってくるというようなことはあるのでしょうか。私自身はあまり聞いたことがないのですが。

【戸谷委員】

行政的に最も効率がいい人口というのは、15万～20万人と言われていています。いきなり15万というのはしんどいですが、9万何千人よりは10万人のほうがいいです。

【上野委員】

数字としては、覚えやすくいいですね。

【堀委員】

ただ、なぜ10万人なのかという答えが出ていませんよね。

【議長（会長）】

現在111,683人の人が住んでいるところからスタートしているのは確かですよ。

【村上委員】

市民が、96,000人や90,000人になったことに対して、何か変わることがあるのでしょうか。少子・高齢化ということはわかっているけど、自分の生活の中で感じていなければ、10万人と出しても「そうか」と言うだけだと思います。これは、行政の目標というよりも市民に対する意識改革だと思うので、目標を設定する意味を市民にわかるように書かなければいけないと思います。目標に対して市がどのように考えているかということは、どこにも書いてありません。会長が言ったようにお金が入ってこないとか、そういう露骨なことも書いておかないと、この目標はなかなかしんどいのではないかという感じがします。

【幸山委員】

目標を10万人にすることは賛成です。河内長野市の人口が最高だったときは、約12万3千人でした。前回の計画の際は12万3千人に合ったインフラを整備したはずなので、それが無駄になってしまう気がします。無駄にしないためにはどうしたらいいかというと、人口の設定が非常に重要になると思います。たかだか9万6千人か10万人と言いますが、10万人を切ったら流れ的下がっていくと思います。オール河内長野市として、いかに10万人をキープするかということをやらなければいけません。

日本全体で過疎地があり、惨憺たるものです。要は住めないからどんどん流出しています。河内長野市も同じです。大阪府でみたときに、住みやすい都市なのかどうかと言ったら、どちらかと言えば住みにくい都市です。大阪市内はどんどん人口が減っていますが、タワーマ

ンションや高層マンションがあるので、若者はいます。ところが、河内長野市には若者がいません。若者にも住んでもらえるまちにしなければいけません。

やはり、子どもの人口が重要ですが、出生数は 300 人台という危機的な状況です。これをどうするかということは、河内長野市の最大の課題なので、目標人口 10 万人というのは、それなりの意義もあるし価値もあると思います。

【堀委員】

そういうことをうたったほうがいいと思います。じり貧になると、生活の便利さが損なわれていくというようなことを入れて、切りのいい 10 万人をみんなで支えましょうという説明があったほうがいいと思います。

【駄場中委員】

10 万人という目標は、かなり高い目標だと思っています。根拠としているところを見ると、出て行っている人を半分に減らして、かつ、出生率を 1.8 まで上げて、かつ、長生きをしてもらってようやく 10 万人ということなので、かなり高い目標だと思っています。

やはり、子どもの数が重要だと思います。今、生まれた子どもが子どもを産むまで約 20 年かかるので、今から子どもを増やしておかないと、今後は加速度的に人口が減っていくので、10 万人を目指すのであれば、出生率は非常に重要だと思います。その辺のことをもう少し市民にわかりやすく書かないと、10 万人に減るのかという感じに取られてしまうと思います。

【出水委員】

部会でも発言しましたが、計画を立てるうえで数字を出さなければいけないのはわかりますし、データで裏付けされているのかもしれませんが、10 万人は到底無理だと予想しています。今までは若年層の数が減っていましたが、これからは流れが変わり、高齢者が減っていきます。残念ながら、そういう事態が私たちの周りでもぼちぼち起こっています。おそらく、中山間地ではもっと進むと思います。中山間地の人たちが、河内長野の駅前に出て来てくれればいいですが、一人では住めないなので、子どもたちの住んでいる近くなどへ行っています。そのような方がこれからはどんどん増えてくると思います。

数字を減らせと言っているわけではありませんが、みなさんが 10 万人を確認できるのであれば、この程度の甘い対策ではできないということを、覚悟して考えていかなければいけないと思います。10 万人にするための考え方として施策が出ていますが、内容的には違和感があります。特に出生率という表現は、本会議の委員のほとんどが男性なので文句は出ませんが、1.8 という数字を出すことは非常に失礼なことだと思います。これを見て、女性の方が異論を出さないのがわかりません。結果的に今の 1.15 から 1.8 になるように努力するという一方で、表には出さないということであればわかりますが、女性の責任だというような違和感があります。他のところでも、そのような議論が出ています。国が出生率に介入することはおかしい

という議論もあります。その辺の取り扱いに注意していただきたいと思います。

もう一度言いますが、今までのように企業を誘致するとか、あるいは、若者が外へ出ないように頑張るといふことでは、絶対に達成できないと思うので、かなり覚悟しないとイケません。それだけはお互いに確認しておきたいと思います。

【幸山委員】

第2回部会資料の資料4に年齢別転入・転出という表がありますが、ある年代の層が非常に多いです。具体的には、平成25年は20～24歳が258人転出しています。これは、学生の方が社会人になるのでわかるのですが、問題はその後です。25～29歳で209人転出、30～34歳で120人転出、35～39歳で63人転出、平成25年のトータルの転出人数は844人です。25歳～39歳の転出を防がなければ、出生も増えるわけがありません。または、転入を増やすしかないので、これから10年間の総合計画で、具体的にどのようにするのかということが一番重要だと思います。

【議長（会長）】

みなさんの考えとしては、10万人の目標を掲げるという前提で、ただし、覚悟して掲げることで、そして、10万人を掲げる意味はどういう意味があつて掲げるのかということ、わかるようにしなければいけないということですね。今の文章では、トレンドで数字合わせをして10万人になっていると見えているので、どの程度の説明ができるか次回もう一度チェックしましょう。

要するに、10万人を目標として掲げ、掲げる意味をもう一度整理するということでよろしいでしょうか。

他にいかがでしょうか。

【駄場中委員】

10万人という話の中で、「1. 急速な人口減少と少子・高齢化への対応」では、地域での雇用の創出ということが出てきますが、「3. 安全で安心なまちづくり」に、雇用の問題が出てこないというのは、欠落しているのではないかと思います。非常に重要なことなので。

【議長（会長）】

人口について大分時間を取ってしまいましたが、それ以外のところでいかがでしょうか。

【中道委員】

24ページの「第2節 都市空間の基本的な考え方」について、1つ目は現状、2つ目は課題、3つ目は解決という構成かなと思って見ていたのですが、現状がかなり甘く書かれているように思います。例えば、生活の利便性があれば、若い人たちが出て行くことはないと思

いますし、先ほど買い物難民という話が出ましたが、高齢者の方たちが日々の生活に困っているようなことがあれば、利便性があると言えるのかどうかという気がするので、現状についてはもっとシビアに、何が問題かということ、市民の方にわかるように書いたほうがいいと思います。

【議長（会長）】

課題についてもご指摘いただいています。丘陵地の住宅地や集落のところ、市街地のところ、それぞれに課題があるので、真摯に受け止めるべきではないかということです。

【堀委員】

24 ページの3の(1)に、「日常生活を支えるため、「河内長野駅」「千代田駅」「三日市町駅」の生活利便性の向上など各拠点機能を強化し」と表現しています。私の最寄り駅は千代田駅ですが、問題になっている美加の台という駅があり、最近無人化になりました。地元の方はとても憂いて、何とかしようと思ってもどうにもできないのですが、他にも、山間部に千早口や天見という無人駅があります。人口は少ないにしても住んでおられるので、私はその立場だったら、うちの駅はどうでもいいのかという感じになると思います。人口が集中している市街地区の駅が拠点になるというのは、ある程度はやむを得ないと思いますが、河内長野市は、買い物難民などの問題が広がっている地域が山間部を中心にあることから、周辺の市民の人たちも気をかけているという意味合いのことを、入れたほうがいいと思います。

【議長（会長）】

第2部会で議論していただきましたが、もう少し議論していただく必要があるかもしれません。

その辺のことは「市民の生活が営まれる「生活圏」においては、地域ごとの自立性を高めながら」というところに入っているのですが、なかなかわかりにくいということですね。加工するなり、これから考えていく中で、第2部会から何かあるでしょうか。

【加藤委員】

放っておいたら、みなさんが懸念されるような状況は起こり得ます。

以前、河内長野で買い物困難者の調査をしましたが、昔は団地の周辺にも店舗があったのですが、その外に大型店が出店してきて、団地の周りにあったお店がつぶれてしまい、プラス、高齢化してくるので支出そのものが減り、周辺が成り立たなくなって、買い物困難者が出ました。そのときに団地の方はどうしたかと言うと、自分たちで車を出して買い物へ連れて行くということをやられました。行政もある程度のことはやろうとしたのですが、行政の最大の問題というのは、市場で成り立たないものをどうやって成り立たせるかという、行政のサービスを上げて支出を増やさなければできません。民間も努力しているので、そこ

とのタイアップということになります。

考え方としては、できるだけみなさんが自立した生活圏で食料品などを確保できるように、そういう施策を取りながら、ベースとしては市場に任せるしかないので、みなさんがどう思うかということです。放っておいたら、大変な不便を強いられることになるので、生活圏を守るのか守らないのかということを理念として、みなさんが同意されて、それなりの支出を伴うという方向を決めないといけないと思います。

そのような議論をしましたが、まだスッキリしていません。

【議長（会長）】

書こうと思うと、どこかの拠点に集中して、あとは水が引いたような雰囲気になってしまうので、なかなか絵が描きにくいということです。どのように考えを上手く伝えられるか、工夫しなければいけません。

他にいかがでしょうか。土地利用についても大事な点です。

【出水委員】

ここにこれをということまでは言いませんが、考えていただきたいのは、第2節の2では、「拠点と生活圏」「生活圏同士」「広域連携」ということが書いてあり、3の（1）にも書いてありますが、コンパクトシティということに対する行政サービスのあり方、あるいは、行政体制のあり方を、考えていただきたいということです。立派な市役所に職員全員が集まっているという概念でいいのかどうか。もっと現場に職員が入っていく必要があるのではないか。コンパクトシティというものを構成要素として考えるのであれば、行政もそれに沿った行政サービスのあり方、あるいは、行政体制のあり方というのを考えるべきではないかと思えます。

あくまでも、私の個人的な問題提起として受け取っていただき、あとは部会のほうでやっていただければありがたいです。

【議長（会長）】

市内分権という議論もあります。河内長野の駅前に集中していいのかどうか、市内そのものが分権化されていかないといけないという議論もあります。

重い課題ですが、土地利用のあり方については、かなり集中して議論していただかないといけないと思うので、第2部会でお願いしたいと思います。

他にいかがでしょうか。

【中道委員】

河内長野は車社会で、車の運転ができる人たちには利便性があると思います。運転できる間は私も河内長野にずっと住みたいと思いますが、運転できなくなったら住めるかなという

不安があります。車社会の中で、それぞれの世代の人たちが住みやすい状況をどうつくるかということは、買い物も含めて大きな問題ではないかと思います。

【議長（会長）】

先ほど、広域のところでも交通という機能を書いたほうがいいのではないかとご指摘がありました。今までのような大きな公共交通ではなく、小さな公共交通をどう考えるかということです。デマンドバスやデマンドタクシーがあったり、福祉タクシーのようなコミュニティビジネス的なタクシーがありますが、免許を返上した後の公共交通も大きな課題だというのは確かです。このあたりをどのように考えていくのでしょうか。

【副会長】

河内長野市では、地域の中に青パトは走っているのでしょうか。既存にあるものをどう活用するかという発想も必要なのかなという気がします。

【議長（会長）】

課題認識のところをもう少し突っ込んでおかないといけないかもしれません。居住歴や年齢構成などのあたりも、みておかないといけないということですね。
他にいかがでしょうか。

【堀委員】

今の意見に賛同します。公共交通の話は大きい課題なので、大きい項目として取り上げていいと思います。

【議長（会長）】

国が出しているネットワーク型コンパクトシティという考え方の中には、交通機能と土地利用が整合するような形で考えていくようにというのが、ある意味コンパクトシティの考え方です。コンパクトシティを支える公共交通のあり方や、交通基盤についても触れておかないといけないかもしれません。今までは車に依存し過ぎて、土地利用と交通体系が分離していました。大きなご指摘がありましたので、考えていかなければいけないですね。

【副会長】

第5次総計の市民アンケートでも、バスなどの公共交通サービスは早急な対応が求められると書いてあるので、大事なことですね。

【議長（会長）】

都市構造を考えていくとか、空間構造を考えていくときには、非常に重要な要素です。

他にいかがでしょうか。

【山口委員】

24 ページ、3 の (2) のところに、「道路・橋梁など、社会資本の計画的かつ適正な維持管理を推進します」とありますが、道路や橋梁だけではなく、水道管や下水管など河内長野市の行政が整備したものの全て、総延長にして数百キロもある中で、総合計画といえども、計画的かつ適正な維持管理というのは、普通はできないことだと思います。適正に維持管理をしていくということを言い切ってしまうといいのかどうか、非常に不安に思います。担当の事務局でインフラ整備を維持管理しているところと調整し、もっと表現を考えたほうがいいのではないかと思います。

【議長（会長）】

下水道や上水道など、供給処理施設のことも、きちんと触れておかなければいけませんね。

【山口委員】

現状、住民から市のほうへ舗装が悪くなっているから直してほしい、ここが危険な状態だと言っても、そこまでやっていったら道路を全て整備するのに 120 年かかるというような答えが返ってきています。計画を見ると、いかにも簡単にできるような言葉に感じるのでもっとシビアな表現にしたほうがいいと思います。

【議長（会長）】

健全な行財政とも関連してきます。

「安全・安心に暮らせる生活環境を確保する」という表現がいいのかどうか。安全・安心というのは、ハードとしてのインフラの整備と、コミュニティの強化というようなことがセットになって安全・安心な環境ができるということなので、ハードだけしか書いていないのが気になるところです。今後、検討していただければと思います。おそらく、自立した生活圏というあたりが、大きな意味を持つようになると思います。

21～22 ページについてはあまり出ていませんが、特に 22 ページの将来像は、総合計画の内容を表している 3 ページのところに、前期は「みんなで創ろう 潤いめぐる 緑と文化の輝くまち 河内長野」、その前は「人・まち・緑 夢くうかん 歴史と文化の生活創造都市」でした。将来像は、最後のほうの審議会で良い言葉を選択できるのだろうと思いますが、各部会でもアイデアを出していただき、積み重ねていってほしいと思います。

他にいかがでしょうか。

【西村委員】

私は千代田に住んでいますが、河内長野駅、千代田駅、三日市町駅、いずれも南海沿線で

す。千代田の地域で計画の話が出たときに、千代田と一言で言っても、千代田駅周辺、狭山寄りとあり、狭山近辺のまちのみなさんは千代田駅へは行きません。滝谷駅か狭山のバスを使います。千代田のほうや長野駅へ行くバスは走っていません。それから、汐ノ宮という近鉄沿線の駅があり、その先は富田林です。千代田駅や滝谷駅は富田林や狭山に絡んできます。

都市空間をつくる際に、交通との絡みもあるので、近隣都市との関係をどう考えているのか。南部の人たちには関係ないかもしれませんが、北部の住民としては、近隣の交通機関をどう使うかということは、とても重要なポイントになるので、近隣都市との関係をどう考えているのかということ、触れてもらえればと思います。

【議長（会長）】

先ほど課題のところでご指摘いただき、広域連携の中での課題が出されているので、都市空間の基本的な考え方の中にどのように入れるのか。今のところは抜けているので、入れておかなければいけないかもしれません。細かい構造まで書くというのは、都市計画マスタープラン的な形でないといけないが、基本的なことは考え方として整理しておかなければいけません。

【生地委員】

都市空間も大切であり、私たちが生きていくところも大切だと思いますが、河内長野市の大部分を占めているのは、森林地帯や山間部なので、もう少しその部分に入れ込んでほしいと思います。第4章の中に入れられるのかどうかはわかりませんが、そういうところに住んでいる人はたくさんいるので、都市環境だけではなく、観光に来てもらうための山間部の環境についても検討していくことが必要であると思います。具体的に言うと、木が植えっ放しになっているところがあるので、森をどうしていくのか。もしかしたら防災にもつながるかもしれませんが。深層崩壊につながる恐れがあるので、そういうところを市でどう扱うのかということは、基本的に大切なことだと思います。その辺のことをどこかに盛り込んでほしいと思います。

【議長（会長）】

生活を支える公共交通が動脈型だとすると、静脈型という5つの谷筋が走っているなどの自然の構造を、私たちは都市インフラに対して環境インフラという言い方をしますが、これからのまちづくりを考えていくときに、都市インフラと同時に環境インフラがどうなっているのかということは、きちんと意識しておかなければいけません。

「3. 都市空間づくりの目標」の一つの項目としてどう書き込めるのか、検討しなければいけませんね。

【中林委員】

日々、人口が減ると言われていますが、行政が増やす方法を考えずにどうするのでしょうか。国が言っていた消滅都市などを気にして、後ろ向きなことばかり言っているような気がします。千代田あたりを都市開発・再開発すれば人口は増えると思います。議長が言われたような交通手段に一番いい動脈となる都市計画道路を廃止しようとしています。そんなことをして増やせ増やせと言っても、住むところはあっても道路がないということになれば、河内長野市に人は住みません。行政自体が悪すぎると思います。行政はもう少し前を向いて進めないと、後ろに向けてばかりいて1.15や1.8と言っているけど、人口は増えないし、維持できないと思います。この数字からすると、私はもうこの世にはいませんが、その点をみなさんよく考えて、やっていただきたいと思います。

【議長（会長）】

そろそろ終えたいと思いますが、大体はよろしいでしょうか。

今日の成果を細かくはまとめませんが、大きくは、第2章の河内長野市の主な課題については、今日頂いたところを入れていけば大体書き込めるのかなと思います。第3章は置いておくとして、第4章は、人口については、10万人とする行政的な意味や我々市民がどういう目標として掲げられているのかという意味、そのあたりを一度書いてみるので、もう一度議論していただきたいと思います。土地利用については、第2部会で、今日の課題を受けて、交通機能を含めながら、また、環境という視点も入れながら、土地利用をどう考えていったらいいのか集中して議論していただいて、その成果をここへもう一度反映していただく。そのような形で次に臨みたいと思いますが、よろしいでしょうか。

それでは、議事1「基本構想第1章～第4章について」は以上とし、議事2「今後の検討について」事務局より簡潔に報告していただけますか。

【緒方補佐】

今後のスケジュールについて説明します。これから後半戦になってくるので、基本構想の骨子については、第5章及び第6章を検討していただきます。まず、12月中旬～下旬にかけて、次の部会を開ければと思っており、さらに、来年の1月頃にもう一度部会を開いて、基本的にはこの2回で第5章と第6章の検討を終えて、最後に全体をまとめていきたいと思っています。

第5章と第6章について、26ページから簡単に説明します。26ページは「第1節 政策の体系」ということで、図式を載せています。将来像へ向けて、まちづくりの方向を3つ挙げています。その下に、計画実現のための方策を3つ挙げています。この構成に基づいて、将来の都市像を出していくこととなります。体系についての議論と併せて、それぞれの政策についても議論していただきます。政策は27ページ以降になりますが、検討しやすいように事例として並べています。

次の部会では、体系と政策について、それから、資料5の社会潮流や課題などの内容を見ながら、抜けがないかという確認もしながら検討していただければと思います。

それから、31ページの「第6章 計画の推進に向けて」ということで、進行管理を含めて、どのように計画を実現していくのかということも、12月と1月の各部会で議論していただければと思います。よろしくお願いします。

【議長（会長）】

各部会の役割を意識していただいたほうがいいと思うので、伝えていただけますか。

【緒方補佐】

26ページの体系をご覧ください。まちづくりの方向の基本目標1の中の基本政策1の安全・安心は第3部会、基本政策2と3は福祉・健康なので第1部会、基本目標2は子育て・教育・人権なので全て第1部会にお願いしたいと思います。基本目標3は自然や環境、都市基盤、産業なので全て第2部会にお願いしたいと思います。土地利用の件もありますが、こちらの議論もお願いしたいと思います。それから、基本政策11のまちのイメージアップと効果的な発信については、3つの目標にまたがっているので、全部会で検討していただければと思います。それから、計画実現のための方策については、全て第3部会にお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

【議長（会長）】

資料を持ち帰っていただいて、各部会で議論することを意識しておいてください。第2部会の方は、基本政策の中の「自然と調和する環境づくりの推進」は環境インフラ、「生活利便性を高める都市基盤の整備」は動脈型の交通政策、「にぎわいと活力を創造する地域経済・産業の振興」は経済振興ということなので、この議論も踏まえながら、土地利用と連動して議論していただければと思います。各部会で一度議論していただいて、それを持ち寄ってまたここで議論したいと思います。

「第6章 計画の推進に向けて」についても議論できますか。後回しでもいいのでしょうか。

【緒方補佐】

第6章までやっていただきたいと思います。計画のスケジュールについては、第1回審議会で提示させていただきましたが、3月中旬くらいから構想案をまとめる予定となっており、それに向けてパブコメ案を2月くらいに作ろうと考えています。

【議長（会長）】

31ページの第6章については、主にどこの部会で議論していただければいいのでしょうか。

【緒方補佐】

どの部会にも問題意識があるので、全部会で検討していただきたいところですが、中心的是には第3部会にお願いしたいと思います。

【議長（会長）】

それでは、第6章については第3部会に意識していただいて、そのような形で進めさせていただきますいただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

【道本委員】

交通のネットワークについては、今日初めて聞いた部会があります。今まで全く聞いてないので意見を出したいのですが、文章でよろしいでしょうか。

【議長（会長）】

いろいろな意味で今日言い足りなかったことは、事務局へ提出していただくということでよろしいでしょうか。是非、提案していただければと思います。

他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、どうもありがとうございました。予定通りの議事が大体できたと思います。次回は、事前に資料を送るようにしたいと思いますので、よろしくお祈いします。事務局へ進行をお返しします。

【緒方補佐】

最後に、事務連絡です。次回の部会は、12月中旬～下旬で調整中です。第3部会については、12月16日夜で内定していますが、それ以外の部会については、近日中に日程を決定し、お知らせします。それから、第2部会の議事録については、最終確認中です。こちらについても、近日中に送付しますので、ご確認をよろしくお祈いします。

なお、この審議会が終わりましたら、正副部会長の方には、今日の打ち合わせということで、隣の801会議室を用意していますので、お集まりいただきたいと思います。

それでは、長い時間ありがとうございました。

以上